



2027年度以降、 日本語教育学会 の大会はどう変わる？

変更の内容と意義について

中俣尚己（副会長）



大方針

2027年度以降は

春季大会：対面開催

秋季大会：オンライン開催

2026年度のみ臨時的に

春季大会：オンライン開催

秋季大会：オンライン開催

対面大会の大方針

• 1日目：無料

- プレイベント（一般公開プログラム）
- 交流ひろば
- 懇親会

• 2日目：有料

- ポスター発表
- パネルセッション

対面大会の方針

- 2027春
- 参加者の**交流を促進すること**に重点を置く。
対面で、そこで会えるからこそ意味のある経験を。
- 公募プログラムは以下の3種類。
 - ポスター発表
 - パネルセッション
 - 交流ひろば

ポスター発表は研究発表である

- 完全なる「研究発表」として位置付けられる。
- 査読を行う。発表賞の審査を行う。
- 口頭発表はスペースの問題によって回ごとに採択基準が変えざるを得ない状況が発生していた。
口頭発表はスペースの制限がないオンラインに。
- 対面はポスター発表にすることで発表機会を増やす。
- 2027春実施後に、フィードバックを頂きたい。

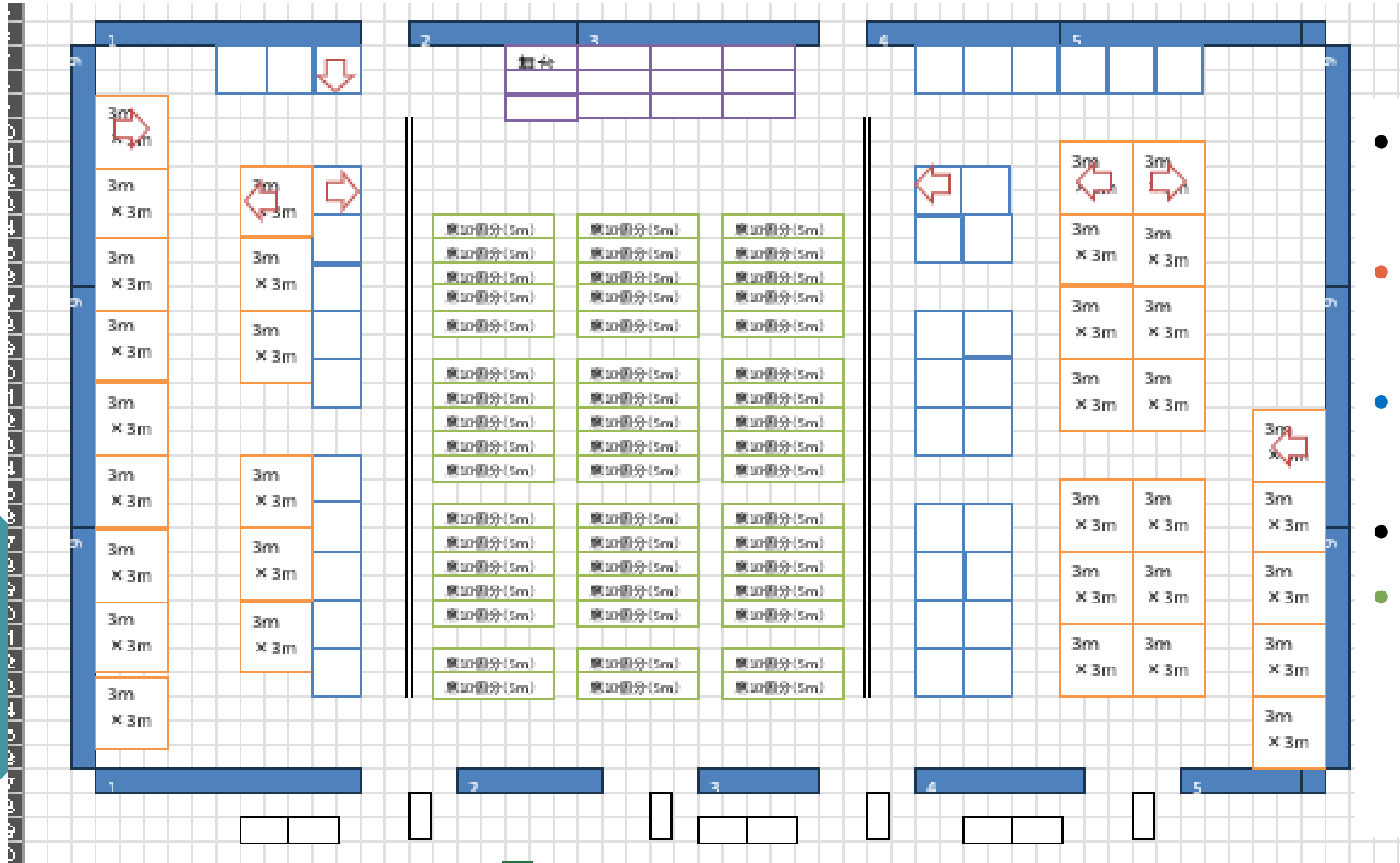
交流ひろば と パネルセッション

- 交流ひろばは新たに大会委員会が所轄。
ボード+机という**現状のスタイル**を踏襲して実施する。
審査は行わない。
ゼミ発表の延長のような研究寄りの内容も受け付ける。
- パネルセッションは**インタラクティブ性の高いもの**
を歓迎する。

対面会場の開催地の選定方針

- 2027年度は宇都宮
- 会場選定の制約が大きくなり、負担が増加しているため、2～4の会場を決め、そこを巡回する形式にする。

2027春 宇都宮の会場について (一案)



- 主要プログラムはすべて1つの大ホールにて行われる。
- オレンジ枠は交流ひろば
または、ポスター発表のブース
- 青枠は賛助団体会員の
ブース
- 両者をシームレスに接続する。
- 中央の緑は椅子。
プレセッションや
懇親会はここで行う。
それ以外の時間は休憩用。

2027年春の懇親会

- 飲食なしの懇親会を実施
- 1日目の全プログラム終了後に大ホールで実施
- 知り合いを増やすための企画を検討中
- * 飲食ができないのは宇都宮会場の制約によるので、次年度以降はこの限りではない

オンライン大会（秋季大会）の方針

- 研究発表中心。
- 公募プログラムは以下の3種。
口頭発表、パネルセッション、
オンライン交流ひろば。
- 説明会・セミナーも実施する。
- 懇親会に代わる場を提供することを検討中。
(発表者に質問をする部屋など)
- 賛助団体会員ブースの時間を確保する。
ブレイクアウトルーム方式。
本大会から先行実施。

オンライン交流ひろば

- これまでの「交流ひろば」「世界中の日本語教育者のためのオンライン交流会」の流れを受け継いだ新しい企画
- 2日目午後実施
- オンライン交流ひろばにのみ参加する場合は**無料**とする
出展者は大会参加費が必要
- 審査なし
- **ブレイクアウトルーム方式**で、画面共有などは自由。個々のルームに司会はおかない

付録

	2026秋	2027春	2027秋
実施形態	オンライン	対面・宇都宮	オンライン
参加費	すべて有料	1日目無料	オンライン交流ひろばのみ無料
開会式	○	○	○
授賞式	×	○	×
プレイベント	×	○	×
口頭発表	○	×	○
ポスター発表	○	○	×
パネルセッション	○	○	○
交流ひろば	×	○	○（オンライン版）
わかばさん	○	検討中	検討中
Net-J	×	検討中	検討中
各種説明会	○	○	○
賛助団体 会員ブース	○	○	○
懇親会	×	○（飲食なし）	○（発表者と話す部屋）